



ぎよしゃ座

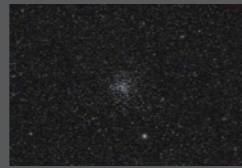
静かな秋の星座をながめているころ、黄色く明るい星が一つ、北東から昇ってきます。ぎよしゃ座のカペラです。このカペラを含め、五角形に星が並んだ星座がぎよしゃ座です。ぎよしゃ座は古くから星座として設定されています。星座絵をよく見ると、男性がヤギを抱きかかえている姿で描かれています。このぎよしゃ座の人物は、アテネ王エリクトニウスといわれています。彼はとてもよい政治を行ったので、その徳の高さから人々から慕われていた名君と伝えられています。生まれつき足が不自由であったため、馬の背に体をしぼりつけて戦いにも出かけました。そして、馬に引かせる馬車を発明し、上手にあやつって戦場を駆け巡ったりしました。この活躍によって星座となったということです。

しかし、ヤギを抱いた老人の姿と結びつかないというのが正直なところ。

一説によりますと、この星座絵の姿が先に考えられ、その後、エリクトニウスの物語が当てはめられたようです。

冬の天の川

夏のいて座からはくちょう、カシオペアと連なっている天の川ですが、冬の星空にもうっすらと存在します。ちょうど、ぎよしゃ座の五角形を通過しています。そのためこの星座にはたくさんの星が見られ、様々な星雲や星団も観察できます。特に、3つの散開星団 M36、37、38 が並んでいる姿が印象的です。それぞれ特徴がありますから、見比べて観察してみるのもいいでしょう。ちなみにそのとなり、M35 はふたご座の散開星団です。



M37【撮影：国立天文台】

<参考> ・「藤井旭の星座と星座神話(冬)」藤井旭(著)：誠文堂新光社

今月の見どころ星どころ

ふたご座流星群

「ふたご座流星群」は、しぶんぎ座流星群(1月)、ペルセウス座流星群(8月)と合わせて年間三大流星群の一つとなっています。もっとも活発で確実に流星が見られるのが、ふたご座流星群です。明るい流星が多くだけでなく、一晩じゅう観測できます。さらに今年は13日が新月で、流星観察の妨げになる月明かりの影響がないので、とても条件がいいといえます。今年のふたご座流星群の期間は12月4日～17日で、予想される極大は15日4時ごろです。

「空の暗い場所で観察した場合、14日21時頃には、すでに、1時間あたりの流星数が30個を越えそうです。放射点が高い空に達する15日の0時から3時頃においてはさらに多くなり、1時間あたり70個に達する可能性がある」と予想されます。この予想流星数は、ここ数年のうちでは最も多く、絶好の観察条件と言えるでしょう。」(国立天文台ウェブサイトより)

流星群の観察をするときは肉眼で見るといいです。「放射点(輻射点)」と呼ばれる1点から外に向かって空のどこかに流れます。ふたご座の恒星カストルの付近に放射点があります。この放射点は、夕方の早い時間帯は低い位置にあるので、21時頃からが好条件です。ずっと上を見ていると首が疲れますから、寝転がってぼんやりと空全体を見てください。可能ならば建物や街灯のないところで観察をすると、流星を見つけやすくなりますよ。防寒対策を十分にとって空を眺めてみてください。

12月14日午後10時ごろ

黄色の十字が放射点。流星は放射点の周囲だけではなく、放射点を中心として空全体に出現します。画像の流星はイメージです。この通りに出現するわけではありません。



文・浜松市天文台
喜澤 俊輔



星空クイズ

星の明るさを表すときに「〇等星」という言葉を使います。数字が少ないほど明るいということになり、1つ等級が変わると2.5倍明るくなります。1等星は6等星の約100倍明るいということになります。条件のよい暗い空において、肉眼で見えるのは6等星までと言われていました。では、いちばん明るい1等星は全天でいくつあるのでしょうか。

- A.20個
- B.21個
- C.22個

答えは中面へ



星空案内

浜松市天文台と浜松科学館がお届けする今月の星空情報

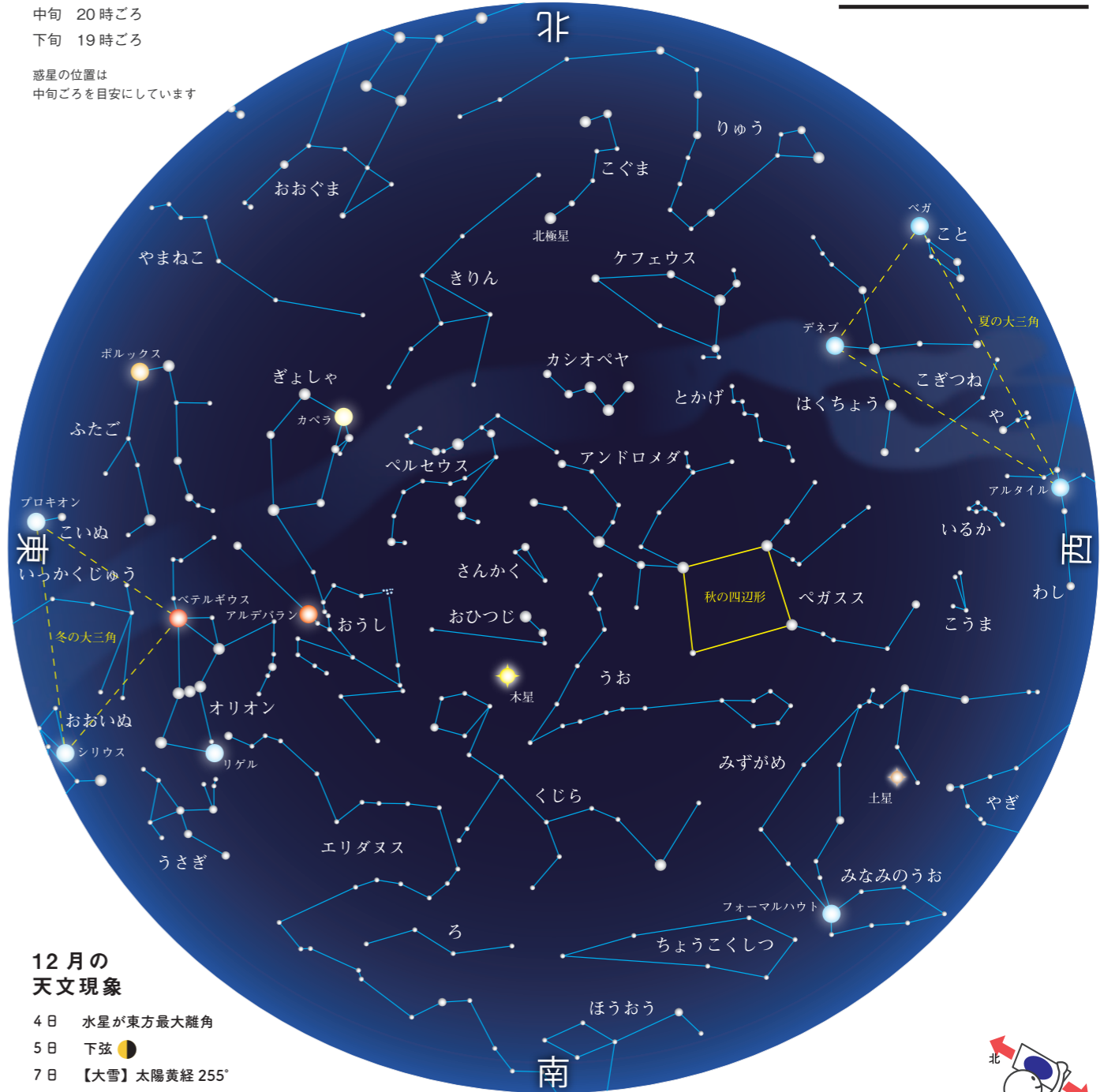
2023年12月

上旬 21時ごろ

中旬 20時ごろ

下旬 19時ごろ

惑星の位置は
中旬ごろを目安にしています



12月の天文現象

- 4日 水星が東方最大離角
- 5日 下弦 ☾
- 7日 【大雪】太陽黄経 255°
- 13日 新月 ☾
- 15日 ふたご座流星群が極大(4時)
- 20日 上弦 ☽
- 22日 【冬至】太陽黄経 270°
- 27日 満月 ☽

12

2023



上の星図は、空にかざして
実際の方角と合わせてご覧ください。

冬の星座のスタートとも言えるおうし座が、宵に見やすくなりました。おうしの肩にあるのが「すばる」(M45 プレアデス星団)です。肉眼でも分かる星の集まりは、古く望遠鏡のない時代から様々な呼び方で親しまれてきました。すばるの星々が肉眼でいくつ見えるか数えてみるのもいいですよ。通常6～7個は数えられるといわれています。





浜松市天文台

イベント情報

催しはすべて事前予約制となります。浜松市天文台ウェブサイトよりお申し込みください。

ウェブサイトはこちら



12/2・9・16・23 星空観望会

土 宇宙へのとびら in はままつ

季節の星座、星雲・星団、月、惑星などを観望。星座の配置や結び方などを解説します。

- 時間 18:30 ~ 20:30
- 会場 天文台屋上階
- 申し込み 開催日 3 日前の水曜 13 時から受付 (30 分ごとと先着 20 組)

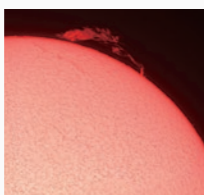


12/3 太陽・昼間の星 観望会

日

黒点、プロミネンスなど太陽が活動する様子や、昼間に見える天体を観望します。

- 時間 14:00 ~ 16:00
- 会場 天文台屋上
- 申し込み 11/29 (水) 13 時から受付 (30 分ごとと先着 20 組)

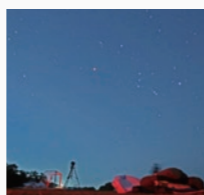


12/14 ふたご座流星群観望会

木

話題の流星群をみんなで楽しもう。温かい服装でお越しください。

- 時間 19:00 ~ 23:00
- 会場 天文台屋上
- 申し込み 11/29 (水) 13 時から受付 (先着 30 組)



12/16 天文ミニ講座

土

星座と当夜の見えるところについて、星のソムリエがやさしくお話しいたします。

- 時間 17:30 ~ 18:20
- 会場 2F 講座室
- 申し込み 12/13 (水) 13 時から受付 (先着 10 組)

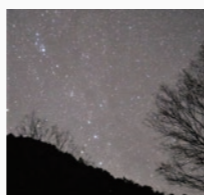


12/17 星と景色の写真講座

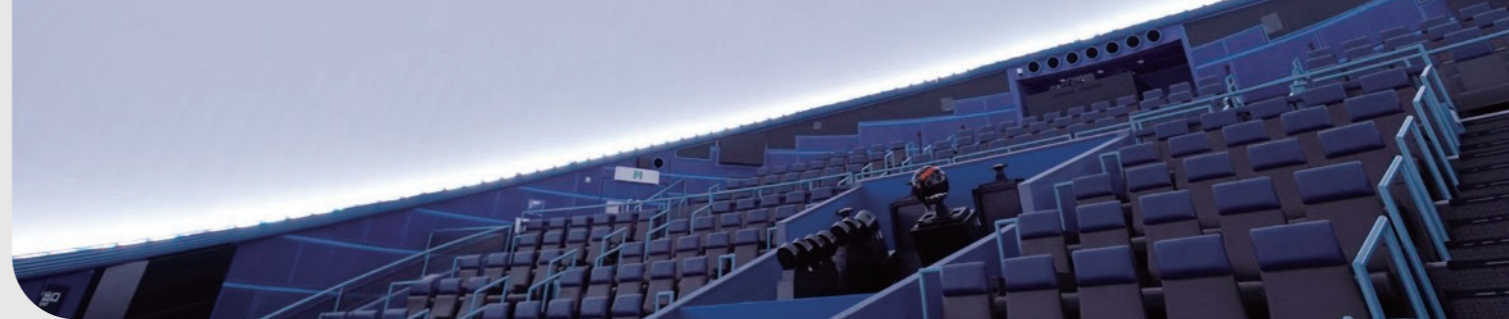
日

三脚と一眼レフカメラで、星の写った風景写真を撮影するための入門講座です。

- 時間 18:30 ~ 21:00
- 会場 2F 講座室
- 申し込み 12/13 (水) 13 時から受付 (先着 6 組)



裏面のクイズの答え : B



浜松科学館

プラネタリウム番組情報

解説員が星空をライブ解説する「生解説プラネタリウム」と臨場感ある「大型映像」をお楽しみいただけます。

blog



生解説プラネタリウム



星降るクリスマス NEW
毎年やってくるクリスマス。あまり知られていないツリーの起源や、「クリスマスの星」について解説します。

- 12/1~12/25 14:30~15:25
- 土日祝・12/25 は 11:40~12:35 も投映

キッズプラネタリウム



ワクワク! クリスマスのほし NEW
どうしてクリスマスツリーのてっぺんに星を飾るのだろう? その伝説をお話するよ。宇宙旅行にも出発!

- 12/2~12/25 10:30~11:10
- 土日祝・12/25 のみ投映

大型映像



銀河鉄道の夜

15:50~16:40



海竜王 モササウルス

制作・配給: D&D ピクチャーズ
制作協力: NHK エンタープライズ / 映像提供: NHK

- 土日祝・冬季※のみ上映 13:15~13:55
- ※冬季…12月23日~1月8日 (12/29~1/3 は年末年始休館)

夜の科学館 特別投映



ふたご座流星群

2023年12月15日の明け方に、ふたご座流星群が極大を迎えると予報されています。ふたご座流星群についてお話しします。

- 12/8 18:50~19:45

クリスマスならではの星

12月に入ると、花屋ではポインセチアをよく見かけられるようになります。クリスマスを代表する植物ですね。今では様々な色のポインセチアがありますが、定番は赤い色をしたものでしょう。赤はイエス・キリストを象徴するといわれ、上から見ると、その形が「ベツレヘムの星」に似ていることからクリスマスの時期に飾られるようになったそうです。

ところで、ポインセチアの赤い部分は何だと思いませんか? おそらく多くの方が花弁だと思っているのではないのでしょうか。しかし、赤い部分は「苞(葉)」なのです。ポインセチアはメキシコ原産で、実は寒さにとても弱く、暖かい室内で短日処理をすると緑色の葉がだんだんと赤くなります。よく見ると、赤い苞の中心に黄色い粒状の部分があります。ここが花なのです。近年では「スカイスター」と呼ばれる新品種も出回り、赤い苞に白く輝く星のような斑点が見られるのが特徴です。

さて、空にもこの時期ならではの星並びがあります。クリスマスイブとクリスマス当日の夜 8 時から 9 時頃にかけて、ぜひ西の空をご覧ください。大きな十字架が夜空に輝いています。まるで、キリストが磔にされた十字架のようです。これは夏に見頃

column

文・浜松科学館 天文チーム

を迎えていた「はくちょう座」の星並びで、ついに地平線の下に沈もうとしている姿なのです。ちょうどクリスマスの頃に地平線に立った十字架に見えるため、ロマンチックな雰囲気を一層高めてくれます。

この時期だからこそ楽しめる“星”とともに、よいお年をお迎えください。

[参考]
株式会社ハイポネックス Web マガジン <https://www.hyponex.co.jp/plantia/study/19490>



星のような斑点のある「スカイスター」のイメージ。花屋で探してみても?

はくちょう座と十字架のイメージ

第42回 ゆめいっぱい小学生 宇宙絵画展

作品募集

「宇宙」をテーマにした絵画を大募集。宇宙への夢をお待ちしています。

応募期間 2023年 12月15日(金) ~ 2024年 1月11日(木) **必着**

作品条件 四つ切り画用紙の平面作品 未発表のもの / 縦・横どちらも可 **応募はこちらから!**

応募方法 電子申請後、作品を天文台に提出 (持参または郵送)

※詳細は浜松市天文台ウェブサイトをご覧ください

